



小坂林野庁長官と全国シンポジウム発表者
(後列左端が小原主任林業普及指導員)

林業普及現地情報
2025-19号(通算551号)
令和7年12月19日
林業技術センター普及班
記述者 宮本雅子

令和7年度林業普及指導員全国シンポジウムにおける入賞県の実践紹介

1 はじめに

令和7年12月4日に「森林資源の適正な管理・利用に向けた市町村支援の取組」をテーマとして、全国の6つのブロック代表による標記シンポジウムが開催されました。

北海道・東北ブロックからは、8月28日に開催されたブロックシンポジウムで最優秀賞を受賞した本県沿岸広域振興局農林部の小原健史主任林業普及指導員が代表として発表を行いました。

ここでは、全国シンポジウムで最優秀賞、優秀賞を受賞したブロック代表県の実践内容の一部を抜粋して紹介します。

2 最優秀賞(中国・四国ブロック代表)

山口県 山口農林水産事務所「主伐・再造林の森林整備促進について」

森林環境譲与税の活用にあたり、管内2市へ全国事例等を参考に補助事業提案を行い、山口市では「主伐材の運送(用材、バイオマス材の山土場から市場や製材工場まで)に対する経費」の補助を開始した。林業普及指導員等による助言により①市内に事業所等がある事業体、②主伐事業体と造林事業体の施業連携協定の締結、③森林経営計画対象地、④伐採後2年以内に主伐面積の50%以上の再造林実施を採択要件としたことにより、確実な再造林へと誘導している。また、地域の主伐事業者、造林事業者、林地残材回収事業者、管内の2市、農林水産事務所を構成員とした協議会を林業普及指導員が中心となって設置し、事業体の連携・協働、主

伐・再造林、林地残材回収等の体制整備及び実践のため情報共有、意見交換等を実施している。

3 優秀賞(九州ブロック代表)

宮崎県 東臼杵農林振興局「再造林率日本一への挑戦～地域再造林推進ネットワークの取組」

再造林率日本一を目指す宮崎県の中でも、90%前後と高い再造林率の東臼杵地域では、近年管外の伐採業者の流入など、地元の森林組合が把握できない伐採が増加しており、伐採事業者と造林事業者の連携を図る必要があったことから、森林組合の管轄単位で地域再造林推進ネットワークを設立し、市町村が保有する伐採造林届出の情報をネットワーク会員に提供できる仕組みを構築し、再造林の働きかけに繋がっている。

4 優秀賞(関東・山梨ブロック代表)

神奈川県 県央地域県政総合センター「神奈川県における広葉樹材利活用に向けた取組について」

広葉樹の流通経路が確立されておらず、需給のミスマッチが生じていることから、搬出・運搬等に係る経費を支援する事業を試行し、広葉樹材の活用用途の拡大に繋げている。また、伐採予定林をモデル林とした資源調査の結果をweb上のプラットフォームで公開し、現地で需給者による意見交換を行い、活用に繋げるための需要側の意見を関係者間で共有した。